

# 中村先生の希望を引き継いでいきます

## ペシャワール会とPMSの現在

ペシャワール会会長／PMS（平和医療団・日本）総院長 村上 優まさ

### 事業再開に向けて

十二月十一日、約一八〇〇人の人々の参列をえて故中村哲先生の葬儀を行いました。中村先生を失った悲しみと喪失感は私たちを圧倒しました。前日、日本から中村先生を迎えに行かれたご家族と城尾ペシャワール会副会長とともに、アフガニスタンからはジアPMS（平和医療団・日本）副院長とディグナル技師が福岡まで寄り添ってくれました。私たちペシャワール会メンバーとは悲しみに打ちひしがれる再会でしたが、ご家族の配慮で中村先生のご自宅でジア先生たちと少数での最後の時を過ごし、中村先生の御霊みたまの前で事業の再開を誓うことができました。

葬儀を終えた十二日、今後の事業再開について一日をかけて協議をしました。

「中村哲先生の事業は全て継続し、中村先生の希望は全て引き継ぐ」に尽きますが、PMS側の要望を入れてPMS総院長を村上

が引き継ぎました。銀行口座の再開など事業開始に必要な事務処理、ナンガラハル州知事に対する要望、安全の維持に対する諸手続、中村先生と共に亡くなったザイヌッラーさんと護衛四人の方々への弔意と補償など事件にまつわることで、そして事件後に休止している医療・農業・用水路事業の再開手順が決まりました。

これまでは、中村先生が全体をいつも掌握して指示を出されておりましたので、今後はPMSとペシャワール会の意思疎通の円滑化を図る手立て、意思決定プロセスの在り方も課題となります。中村先生が現地からペシャワール会に届けておられた週報（解説と写真で、用水路を中心に農業・植樹などの進捗状況を細かく報告しておられました）をPMSの各部門より発信、情報共有を継続することになりました。加えてPMSの各部門の責任者（十二名）とペシャワール会、とりわけPMS支援室員と直接会っての協議を年三、四回設けることにしました。

現地、せめてカプールで開催したいのですが、中村先生さえも亡くなられた事態の前に安全体制を見計らう必要があります、近隣国での開催を予定しました。

これに併せてペシャワール会事務局、特にPMSとの連絡協議をするPMS支援室の強化を図ります。また事業再開プロセスをできる限り早く公開する目的でホームページ（HP）に順次掲載をいたします。進捗状況は会報より早くHPで掲載されますのでご了解ください。

速やかに、また確実に事業が再開できたのは、中村先生の実感しながら皆で歩んでいるからです。

### 「緑の大地計画」の今後

「緑の大地計画」は現在マルワリード用水路の取水門拡大、またマルワリードII用水路に関連してクナル河の護岸工事、排水路工事、また今冬には取水堰新設工事を予定しています。JICA（国際協力機構）とは二〇二〇年度をめどに、PMS方式の取水堰・用水路について、既刊の中村先生の著書『アフガン・緑の大地計画』をより専門化したガイドラインとマニュアルを作成中です。

ミラーン研修所は、FAO（国連食糧農業機関）の申し出があり、現場作業の進捗状況を見て、継続を検討します。

中村先生は「緑の大地計画」の流れを左

記のようにまとめられています。

1. マルワリード用水路建設（二〇〇三～一〇年） 地元譲渡の段階
  2. 取水堰の建設と研究（二〇一〇～一九年） 標準設計の完成
  3. PMS方式の普及（二〇一七年～）
  4. ガンベリ沙漠開拓・PMS農場の充実
- 「天、共に在り」を通奏低音に

これからも困難な課題が次々に出てくるでしょう。中村先生の著書ではさりと触れられている本当の困難に直面した際に、私たちがどのように対処すべきかは、中村先生のこれまでの対応に学ぶところから始めます。先生は「ベシャワールとアフガニスタンでは、世界が抱えるすべての矛盾が見える」と、同所にこだわってこられました。「隅を照らす」とも表現されています。先生の著書『天、共に在り』から、ガンベリ沙漠に水を引いたあとに書かれた一節をかみしめています。

「小高い丘から望むと、沙漠に囲まれる緑の人里は、壮大な天・地・人の構図だ。厚い防砂林の森が、沙漠と人里とを、くつきりと分けている。過酷な自然の中で、人間は身を寄せ合って生きている。生殺与奪の権を持つ大自然の前に、つましく生命を営む様子に、改めて『天、共に在り』という実感と、安堵を覚えるのである。自然は喋らないが、人を欺かない。高く仰ぐ天が、

常にあることを実感させる。絶望的な人の世とは無関係に、与えられた豊かな恵みが在ることを知らせる」

一月二五日に西南学院大学チャペルで行われた「中村哲医師とのお別れの会」には約五千名の方にご参列いただきました。会場に入りきれなかった方、さらには全国におられる会員や共感くださる方々の思いと一緒に中村先生とお別れいたしました。それは天におられる中村先生との出会いの始まりでもあります。今後のご支援をお願いいたします。

#### ニューデリーでの協議速報

二月十日から十四日まで、インドのニューデリーで、PMSの医療・農業・用水路灌漑部門責任者八名と、私を含めたベシャワール会PMS支援室六名が会して、手を取り合い、中村先生を偲び、悲しみを共有し、そして中村先生が興した事業と希望を引き継ぐことを誓ってきました。現在は三事業共に活動は続いています。

医療では、ドラエヌール診療所は事件直後より救急患者の治療を開始し、十二月二一日からは通常診療をおこなっています。スタッフは中村先生の活動の出発点である医療活動に誇りを持ち、継続だけでなく発展への意欲を語っています。診療所の名称を「ドクターサーブ・ナカムラ・メモリアル・ドラエヌール診療所」に変更したいと

希望され、認められました。

農業は麦と稲作が中心ですが、二万五千本のオレンジは昨年日本で学んだ剪定を始め、野菜、サトウキビの収穫や植え付け、酪農、オレンジの育苗、養蜂など多岐にわたる、収穫を得て意気軒昂でした。

政府より貸与を受けている二三〇ヘクタールのガンベリ農園には、すでに造成された一ヘクタールの「ドクター・ナカムラ・メモリアルパーク」があります。その横に現在、中村先生の記念塔を建築中です。また、ガンベリ農園全体を「ドクター・ナカムラ・メモリアルガーデン」と改称するように州政府に申請を出す準備を始めています。



インドでの協議。初日の様子（2020年2月11日）

用水路・灌漑については、マルワリード川流域のクナール河の護岸工事が進み、これまでしばしば洪水で冠水していたベラ村周辺の安全が確保でき、同用水路下流に三キロ延長することが提案されました。

また中村先生が生前最後に準備をしていたゴレーク村については、三月に調査を開始し、秋にはPMS方式の取水堰と用水路の工事が着工される予定です。マルワリード用水路の改修工事は三月開始、取水門の拡張

工事は秋の開始が決定されました。このように中村先生の意志に沿って、ところを一つにして活動が始まり、活気があふれました。最終日、別れの時に中村先生の写真の前で自然発生的に参加者全員が手を取り合い、*"Just do it"* (実行あるのみ)と中村先生の口ぐせを繰り返して、再会を誓いました。一人一人が中村先生の魂を抱くことができ、温かい気持ちで終えたことに感謝しています。詳細な報告は次号に予定しています。

## チーム・ナカムラとして活動再開

PMS副院長／ジャラバード事務所所長 ジアウルラフマン

### 漆黒の闇に包まれて

私の人生が漆黒の闇に包まれた日、二〇一九年十二月四日から、私のこの報告を始めます。この日の朝七時四五分から事務所朝の打合せを行なっている時、ドライバのヤシンから電話があり、市街地で攻撃されて、運転手のザイヌッラーと四人の護衛が死亡し、ドクターサーブ中村は病院に搬送されたと知らされました。私たちは大急ぎで病院に駆けつけましたが、ドクター

サーブは術前処置をされて手術室に移された後でした。手術後に他の病院へ移動するためジャラバード空港へ搬送されましたが、空港内で命を落とされました。

ドクターサーブのご遺体はカブール経由で日本に運ばれました。私とエンジニアのデイダールは先生のご遺体に付き添い、一緒に日本に行きました。ドクターサーブの葬儀を終えて私達が日本を出国する前日にペシャワール会理事会が開かれ、ドクターサーブ村上がPMS総院長に就任されました。そ

の後、私達はアフガニスタンに帰国、その間PMSの活動は一時的に停止していました。日本から戻った私は全職員を招集し、村上先生が新総院長になられたこと、今後もPMSを支援していくというペシャワール会の方針が出たこと、PMSの活動を再開することを説明しました。職員全員がドクターサーブ中村の希望と使命を引き継ぐ意思を表明し、私達は、診療所、マルワリードIIプロジェクト、農業事業、灌漑維持管理事業と、一つずつ活動を再開して行きました。活動再開初日、私は主要な職員を集め、これからは皆で心を合わせ、何事も本部(日本)と相談の上で「チーム・ナカムラ」として事業に取り組んで行きたいとお願いしました。

### 日々の業務と今後の活動

中村先生が亡くなられたあと、PMSの事務所では少し体制を変えて運営をするようになりました。今回はPMSの業務を紹介いたします。

ジャラバード事務所の日々の業務は、まず朝礼で職員の出欠確認をします。その後運営委員会メンバーが集まり、前日までに完了した作業とこれからの作業の報告を行うところから始まります。PMSのミラーン事務所でも同様に朝礼、報告・打合せを行なっているから、農業や用水路の現場に向かうようにしています。